

慢性腎臓病 (CKD) について ②

検査室だより 2024.12

前回、一般的な尿検査や血液検査でも、CKD 発見のてがかりになるとお話ししました。今回は、血液検査や尿検査でチェックするポイントをお話します。



尿検査

一般的な尿検査では、試薬を含むろ紙を尿と反応させ、ろ紙の色調の変化を色見本と比較して尿蛋白や尿潜血が(-)や(+)などと判定します。通常は、検査で検出されるほどの尿蛋白や尿潜血はみられません。腎臓に障害があると、血液中のたんぱく質や赤血球が尿に漏れ出てきて、尿検査で陽性となります。



ただし、尿は腎臓で作られて、尿管、膀胱、尿道を通過して体外に排出されるため、腎臓以外に異常がある場合にも尿蛋白や尿潜血が陽性になることがあり、継続して検査する必要があります。



血液検査

クレアチンとは体内でつくられる老廃物の 1 つで、腎臓でろ過されて尿として排出されます。腎臓の機能が低下すると、老廃物の濾過や排出がうまくいかず、血液中のクレアチンの値が高くなります。eGFR(推算糸球体濾過量)とは、腎臓に老廃物を排出する能力がどれくらいあるのかを血清クレアチン値、性別、年齢をもとに推算した値ですが、クレアチンを測定していれば、ほとんどの場合 eGFR 値も併記されています。その値によって慢性腎臓病の重症度は 5 段階に分けられています。

CKDステージ	ステージ1 ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
eGFR値	90以上 89~60	59~30	29~15	15未満
腎臓の働きの程度	正常 軽度低下	中等度低下	高度低下	末期腎不全
治療法	生活改善・食事療法・薬物療法			透析・腎移植などの準備

次回も CKD のお話です。

お気軽に医師・看護師までご相談ください。